

2024年度
事業計画書

自 2024年 4月 1日
至 2025年 3月 31日

| | |
|-----------------|----------|
| ① 法人事務センター 事業計画 | p1 |
| ② 清風荘 事業計画 | p2 |
| ③ さわの風 事業計画 | p3 |
| ④ じゅらく 事業計画 | p4 |
| ⑤ 清湖園 事業計画 | p5 |
| ⑥ ほろん 事業計画 | p6 |

社会福祉法人 ゆたか会

計画方針

- 1、法人理念「隣人愛のもと誰もが安心して暮らせるよう、湖西地域の特性を活用して、地域社会の人々の思いにこえる」の浸透および行動促進を実現していく。

非営利セクターの中核として、これまでに培ってきた専門性と地域ネットワークを最大限発揮し、地域づくりに貢献していくことを使命とする。また、地域の生活課題を解決するため、地域住民を含め、様々な主体が参画・協働し、包括的な支援体制の構築に努める。



“高島も 福祉も 自分も ゆたかに” をスローガンに

「魅力ある地域と職場づくり」に取り組む。

- 2、「法人経営のガバナンスの強化と財政基盤の安定」を実現させる。経営指標分析によるリスクを読み解き対応していく。

実施重点項目

魅力ある職場づくり、人材の確保、業務省力化、財務基盤の安定を重要課題と位置づけ、下記の6項目を重点実施項目とする。

- 1、地域福祉において主体的な役割を果たしていくため、本人や世帯の属性を問わない支援等の実施や、地域の福祉ニーズを踏まえた社会資源の創出、及び職員の視野を広げることを目的とし「つながり広がりプロジェクト」(仮称)を立ち上げ、活動を開始する。
 - ・介護、障がい、子ども・子育て、生活困窮者のすべてが利用できる寄り合いの場を設け、要支援者等と地域のつながりを形成するとともに地域での見守り体制を構築。また、つながりや参加の支援、狭間のニーズにも対応できる参加支援体制を強化していく。
 - ・人材確保と育成・定着のため、「広報・採用企画プロジェクト」採用チームを主軸とし、地域との連携・人との繋がりを広げる活動をさらに促進させていく。また、SNS等を活用した広報活動を引き続き強化していく。
- 2、研修委員会、リスクマネジメント委員会、要望等解決委員会、防災対策委員会、安全衛生委員会の各委員会、並びに、ゆたか会カレッジ、プロジェクト等との連携とつながりにより安心して働ける職場環境づくり、働きがいのある職場づくり、組織の活性化を図る。
- 3、ICT「Information and Communication Technology (情報通信技術)」の活用により、情報共有体制の強化および業務省力化を図っていく。
- 4、【フードサービス】安心安全でおいしい食の提供を基本に、ご利用者に寄り添った栄養ケアを多職種連携で行う。また、物価上昇に対応するため業務改善・業務省力化・業務標準化を一層図り、行事食など普段とは違った食事の提供を可能にする。
- 5、中期計画(修繕計画)をもとに、大規模修繕等の優先順位を常に評価し、計画的な資金運用のもと施設の維持管理にあたる。また、各種補助金・助成金の情報に注視してより有利な資金繰りを検討していく。
- 6、設備資金借入金の償還(さわの風・清湖園・ほろんの建設分、清風荘改修分)が遅滞なく行えるよう資金計画を進める。

2024年度 清風荘 事業計画

定員：施設入所 90名・短期入所 20名

ゆたか会の理念である「隣人愛のもと誰もが安心して、湖西の地でこころゆたかに暮らせるよう、この地の特性を活用して、地域社会の人びとの思いに応えよう」をどう具現化していくのか、それを表現していく始まりの年となるようにしていく。日々の生活を大事にしながらも、自分たちが在る地域に目を向け、生活を感じ、暮らすこととはを考え、今までの支援の殻をやぶり、これからの支援を創造していく。「支援する、される」の2つの選択肢ではなく、支援を通して一緒に暮らす事とはを考えていくことを大切にしていきたい

基本活動方針



“好きです、ゆたか会” “高島も福祉も自分もゆたかに”

地域に存在する福祉施設従事者として、地域で生活する人として、成長をしていく

1. サービスの質向上

- ①安心・安全な暮らしを守るため日常の関りを常に振り返り「不適切な芽」を摘み取ることで高齢者虐待防止の推進を一層図る
- ②安心・安全な生活を送るため日常的な感染予防と発生時の適切な対応ができる力をつける。また自然災害への対応力強化も継続して取り組む
- ③安心・安全な生活を支えるための技術・知識・姿勢を再構築していく。目の前の「人」と向き合う
- ④日常生活の中にある「楽しみ事」を大切にする。食べる楽しみ、参加する楽しみなど他職種協働で取り組み「一緒に楽しむ」を広げていく
- ⑤目標管理活動、3S活動、個人面接の実施により職員相互の問題解決能力、コミュニケーション能力、チーム向上を目指す
- ⑥アフターコロナに向けての各種制限を段階的に解除していく

2. 財政基盤の安定と設備改修

- ①収益の確保に向け、計画的かつ効率的な事業運営を行う
目標稼働率：入所96% 円滑な入退所支援、健康的な生活が送れる支援
短期入所 80% 空き情報の発信と特養空所活用
- ②各種加算取得の再検討し、収益増加に繋ぐ
- ③ICT を活用した業務省力化、働きやすい職場環境づくりに引き続き取り組んでいく

3. 働き甲斐のある職場の実現のために

- ①福祉の魅力を発信できる体制作りに取り組み、やりがいを見いだせる組織をつくる
- ②法人理念の具現化に向けて、法人委員会やプロジェクト等と連携して職場の活性化を図る

4. 地域における公益的な取り組み

- ①子どもの居場所づくりとして「フリースペースゆったり」の提供を清湖園と共に行う
- ②地域防災力向上のための地域ネットワーク構築を目指す
- ③実務者研修の開催を通じて地域の人材育成を行い、地域福祉に寄与する
- ④地域サロンを周辺事業所と協力し実施する

2024年度 さわの風 事業計画

定員（登録）：施設入所 29 名・短期入所 1 名 小規模多機能 24 名

法人理念 「隣人愛のもと誰もが安心して、湖西の地でこころゆたかに暮らせるよう

この地の特性を活用して、地域社会の人々の思いにこたえる」

地域密着型施設として、事業所を拠点とした地域づくりをより一層推進し地域との連携を強化する。地域ニーズの把握と、さわの風として何が出来るかを探りながら共に行動する。交流を活発に行い理解や協力を得て、施設の密室性や閉鎖性の解消に取り組む。地域や家族との利用者の繋がりを重視した個別ケアを行い、職員ともに親密な関係を築き、双方が満足できる生活を提供する。

基本方針

『好きです！ゆたか会』 『高島も 福祉も 自分も ゆたかに』

お一人お一人をもっと知り「さわの風で良かった」と思っていただけ施設となる
この地域に生きる一人の人として、この職場この仕事を通じて成長出来るよう努力していく

1 サービスの質の向上

- ① 利用者と共に地域に出て、様々な世代や人との交流の中で、施設を出て地域住民の一人として利用者が過ごされる時を共に過ごす時間を持つ。
- ② 災害時における相互協力の為、地域との連携を強化する。相互の防災訓練への参加や平常時からのやり取りを多く持ち有事の際に備える。BCP計画を基に、計画的な訓練を実施していく。
- ③ 本人・家族が望む人生の最後を一緒に寄り添い、後悔の少ない看取りができるように支援していく。看取り後のカンファレンスや施設内研修を実施することで職員の精神的な負担の軽減を図り質の向上に努める。医療的ケア（喀痰吸引等研修）も引き続き受講をすすめ、安楽に過ごせる環境の整備に努める。
- ④ 各ユニットの目標に対して目標管理活動を通して達成を目指す。
介護福祉士・介護支援専門員などの資格取得に向け、積極的に受験をすすめる。

2 財務基盤の安定

- ① 稼働率 特養96%、短期入所90%、を達成する。
小規模多機能 登録定員（24名）に対する登録者数100%を目指す。

3 働き甲斐のある職場の実現

- ① 職員個々の思いや目標を達成できるよう面接を継続的に行い、それぞれが考える自分の将来像の構築と達成を支援していく。

4 地域福祉と地域貢献

- ① 地域行事には住民の一人として利用者と共に積極的に参加する。ぬくもりネットワークの活動に参画し地域の人々との交流を大切にす。
- ② 運営推進会議を2ヶ月に1回（奇数月）開催し地域ニーズを把握する。
- ③ 高島市、高島市社会福祉協議会と連携し子供の居場所づくりとして「フリースペースさわのそよ風」を継続して行う。

ゆたか会の理念である「隣人愛のもと誰もが安心して、湖西の地でこころゆたかに暮らせるよう、この地の特性を活用して、地域社会の人びとの思いに応えよう」のもと、在宅での生活と同じように過ごしていただくことを目指しているが、高齢化・重度化が進み、ケアハウスでの暮らしの継続が難しくなっている入居者もおられる。必要に応じて在宅福祉サービスを活用し、その方に合った生活が送れるように支援していくことも重要ではあるが、その方にあった暮らしの場所への円滑な移行支援も大切であり、課題でもある。

第二の人生の住まいの場として入居後も住み慣れた地域や顔馴染みの関係で、安心・安全・豊かな生活の場となるよう自らサービスを選択し、「身体的自立」、「精神的自立」、「社会関係の維持・拡大」の三本柱を基本とし総合的に援助が出来るよう事業を実施する。

基本方針



“好きです！ゆたか会” “高島も福祉も自分もゆたかに” をスローガンに

- ・入居者の自主性、自立性を尊重し、一人ひとりの生活を支えるケアを提供する
- ・生活しやすい居住空間、地域との結びつきを大切にする
- ・入居者の趣味・教養・娯楽等への協力と支援を図る

1. サービスの質の向上

- ①在宅福祉サービスとの連携による生活の質の向上を図る
- ②介護予防への取り組みとして余暇活動の充実、臨床心理士の面接によるセラピー、理学療法士による健康体操を継続する
- ③定期的に運営懇談会を実施し、入居者の意見や要望を反映した運営に努める
- ④入居者が生きがいをもった暮らしが送れるように個々の変化や悩み事を把握し、早期に対応することで快適な生活の場とする。また生活を送る場所として適切な支援を考える
- ⑤要介護の入居者に転倒防止の「居住環境のチェック」の実施と検証ならびに助言を継続する
- ⑥防災対策（BCP）委員会と連携し、防災意識向上と自助、互助、共助への取り組みを推進する
- ⑦目標管理活動、3S活動、個人面接の実施により職員相互の問題解決能力、コミュニケーション能力、チーム向上を目指す

2. 財務基盤の安定と設備改修

- ①予算の執行状況を共有化するために事務センターと連携を図る
- ②日々の経費節減に努める
- ③24時間循環風呂の配管修繕の検討

3. 働き甲斐のある職場の実現のために

- ①職員の負担軽減をするためのメンタルヘルスと風通しのよい組織風土をつくる
- ②ワークライフバランスに配慮した職場環境を推進する
- ③職員が働きやすい職場は、利用者が安心して楽しく過ごせる場であることを常に意識する

4. 地域福祉と地域貢献

- ①地域との共催行事や活動への参加を積極的に行う


2024度 清湖園 事業計画

定員：施設入所50名・生活介護40名・短期入所4名・日中一時3名

現在、多様性が尊重され、誰もがともに支え合い、役割を担える「地域共生社会」の構築がめざされている。法人理念と計画方針を念頭に置き、地域との繋がりや広がりを具体的に進め地域、住民との関係性を大切にしながら、新たなコミュニティ作りに取り組んでいく。

また、新年度は障害者福祉サービス等報酬改定により、新たに施設入所定員50名の報酬体系が新設され、定員を10名削減し、2階・3階集約型の新体制で入所者への安心と安全が提供できる取り組みも同時に行いながら地域に関わる支援として、1階「地域交流スペース」を繋がりながら広めていく空間として活用できる仕組みを作っていく。

基本活動方針

 “好きです、ゆたか会” “高島も福祉も自分もゆたかに” をスローガンに
誰もがどの地域において安心して生活が送れるよう地域ニーズへの対応を積極的に行う

1. サービスの質の向上

- ①日中活動（余暇活動含め）の支援が充実するよう委員会とも協同し、その人らしい生活が送れるよう取り組む。
- ②職員一人一人の支援を振り返る場を設け、障害者虐待防止の意識の徹底・支援の質の向上を目指す。
- ③身体的介護や医療ケアの必要性の高い利用者が増加のため、医療・介護の基礎知識や支援スキルの向上を図る。
- ④転倒・転落事故の原因分析により、再発防止に向けた取り組みを行い利用者個々に応じた適切な支援に繋げる。
- ⑤法人フードサービス係と食事に関係する委員会・食事支援係の連携を図り、協同しながらの取り組みを行う。
- ⑥サービス提供の基本となる法令、報酬の仕組みや個別支援計画等について、職員の理解を深めるため、研修の機会を確保する。

2. 財務基盤の安定 *経営に関する意識の醸成

- ①稼働率（収支等）状況の説明、適切な予算執行や水道光熱費等の経費節減に施設一丸となり取り組む。
- ②入所定員充足の維持に努めながら、短期入所の利用を緊急対応も含め積極的に受け入れる。
*目標稼働率：施設入所 94% 短期入所 50% 生活介護 98%
- ③施設内の不具合箇所を把握し、優先順位を評価しながら必要な修繕を行っていく。

3. 働き甲斐のある職場の実現

- ①働き方改革を進めるために、業務の効率化・適切な勤務時間を把握しながら、有給休暇取得の取組を継続する。
- ②職員間の相互理解を深めるため「報・連・相」の徹底や日常的なコミュニケーションの確保。
- ③法人で取り組んでいるプロジェクトに多くの職員が参加する機会を作り自己の成長に繋げる。
- ④役職者を中心に個別面談を定期的（6か月に一度）に実施し意見を聞きながら働きがいのある職場づくりを目指す。
- ⑤業務の効率化（会議・委員会の見直し）、時間外労働（オンコール体制）の縮減の取組を行っていく。

4. 地域における公益的な取組の実施

- ・1階地域交流スペースを「つながり広がりプロジェクト」（仮称）の活動拠点として活用し、地域での見守り体制・参加支援体制を構築していく。
- ・地域生活支援拠点等整備に向け、ほろん拠点と連携し緊急時の迅速・確実な支援の実施と短期入所の活用を目指す。
- ・子どもの居場所づくりとして「フリースペースゆったり」の提供を清風荘と共に行う。

2024年度 湖西総合在宅サービスセンターほろん 事業計画

事業名：就労継続支援B型（定員22名）、就労移行支援（定員8名）、生活介護（定員10名）
就労定着支援、ホームヘルプ、居宅介護支援、計画相談、社会参加、働き・暮らし応援センター

法人理念「隣人愛のもと誰もが安心して暮らせるよう、湖西地域の特性を活用して、地域社会の人々の思いに応える」 今一度理念を読み解き、理念に対しほろんがどう応えていくかを考える。高島というまちの課題や魅力を知り、地域住民の声を聞き、高島を見つめ直す。そのために、地域活動への積極的参加と、ほろん会館の地域への開放を考える。

誰もが地域社会の一員として普通に暮らすことができるように、福祉有償運送や移動支援、同行援護のサービスを利用して社会参加を支援する。

障がい者や生活困窮者が、働く場所や経験の場など多様な働き方のできるまちづくりを関係機関とともに考えていく。

「相談に行ってみよう」と思われる、ひらかれた拠点を目指す。

活動方針【福祉拠点をまちにひらく】

『すべての壁をとっばらえ！！』地域との壁・制度の壁・施設や関係機関との壁をなくす。

『認め合い・助け合い・感謝の気持ち』

- ・所属する事業以外のことも考え、意見を出し合い尊重し、助け合える職場作りを目指す。
- ・笑顔で「ありがとう」といえる職場環境をつくる。

1. サービスの質の向上

- ・BCP委員会や虐待防止委員会の定期開催および研修や訓練、マニュアル等の見直しを行っていく。
- ・困難事例に対しては、事業枠を越えた相談や会議を速やかに行き共有し、利用者へよりよいサービスへ結びつける。
- ・苦情要望や事故に対し、速やかに丁寧な対応をする。利用者や地域からの小さな声を拾い上げる。
- ・行政や関係機関との連携を強化し、地域や多職種を巻き込んだ支援を実施する。
- ・利用者に関わる時の姿勢やコミュニケーションのあり方を見つめ直し、ソーシャルワークスキルの向上を目指す。

2. 財務基盤の安定と事業継続のための取り組み

各事業目標値：・わーくる夢稼働率 B型80%、就労移行90%、生活介護90%

- ・計画相談契約者数110名 ・ホームヘルプ実人数 老人50名、障がい20名
- ・居宅介護支援ケアマネ一人につき要介護35名。
- ・介護報酬改定による、報酬や加算の取りこぼしをなくす。
- ・わーくる夢について、市内唯一である就労移行支援事業を広く知ってもらおう。生活介護の報酬改定による開所時間やサービスの在り方について清湖園と連携し進めていく。
- ・ホームヘルプの早朝・夜間・土日を積極的に受け入れる。

3. 働き甲斐のある職場の実現

- ・全員参加型の月例会を実現させ、一緒に考え意見交換できる場作りを行う。
- ・相談窓口の活用、日常的な声掛けや職員面談など、職員のメンタルヘルスに留意する。
- ・ワークライフバランスの推進。それぞれが働き方を見直し、残業のいない事業を目指す。

4. 地域に向けて

- ・西区を中心に、サロンへの継続した参加に加え地区行事に積極的に参加する。
- ・ほろん会館に地域の人を招いたり、地域に開放する機会を作っていく。
- ・地域の人が気軽に寄れる場所とは・・・子供から高齢者、障がい者、誰でも来れる場所を考える。